

教育委員会会議録（12月定例会）

日 時

令和4年12月22日（木）
午後1時30分から午後2時15分まで

場 所

日立市役所 304・305号会議室

出席委員

教育長	折笠 修平
教育長職務代理者	中村 雅利
委 員	上村 由美
委 員	朝日 華子
委 員	小野 智久

委員以外の出席者

教育部長	松本 正生
理事	窪田 康德
総務課長	松本 賢吾
学校施設課長	高瀬 稔
学務課長	芳賀 友博
学務課課長	酒地 康彦
学校再編課長	渡邊 鏡子
生涯学習課長	信太 誠
スポーツ振興課長	玉置 伸一
指導課長	多田 賢一
指導課課長	佐川 正城
記念図書館長	赤津 光司
郷土博物館長	宮内 雅弘
北部学校給食共同調理場長	石川 涉
教育研究所長	横山 宏栄
子ども施設課係長	高野 勉
総務課副参事(兼)庶務係長	西 勇人
総務課副参事(兼)計画財務係長	高橋美奈子
総務課主幹	澤田 貴子
総務課主事	佐藤 友香

議 事

報 告

報告第12号 教育委員会11月定例会の会議録について

議 案

議案第41号 日立市立学校等給食費取扱規則の一部を改正する規則の
制定について

その他

- (1) 令和4年第4回市議会定例会について
- (2) 令和5年度日立市奨学生の選定状況について
- (3) 令和4年度日立市優秀教職員等褒賞事業の受賞者について
- (4) 第69回日立市教育論文応募状況及び審査結果について
- (5) 令和5年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果等について

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 長 ただ今から、教育委員会12月定例会を開会します。

 本日は、傍聴希望者はありません。

2 報 告

報 告 第 1 2 号 教育委員会11月定例会の会議録について

教 育 長 まず、報告第12号について、御意見等はありませんか。

全 委 員 特にありません。

教 育 長 それでは、本件については、承認されました。

3 議 案

議 案 第 4 1 号 日立市立学校等給食費取扱規則の一部を改正する規則の制定について

教 育 長 続いて、議事に移ります。

 議案第41号について、学務課長から説明をお願いします。

学 務 課 長 物価高騰対策として、子育て世帯の負担軽減を図るため、3学期分の給食費の保護者負担金を免除することについて、関係する規則を一部改正するものです。

 対象となる給食費は、令和5年1月から3月までの3か月分です。

 免除の対象者は、本市が給食を提供している市立小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校、県立日立第一高等学校附属中学校に通う児童生徒の保護者です。

 附則に給食費の負担の特例を規定する第4項を加えるものです。

教 育 長 それでは、議案第41号について、可決することによろしいでしょうか。

全 委 員 異議なし。

教 育 長 議案第41号については、原案可決と決しました。

4 その他

(1) 令和4年第4回市議会定例会について

教 育 長 続いて、その他に移ります。
その他(1)について、御質問や御意見はございますか。

委 員 篠田議員の質問の中で、不登校の子ども等への対応としての訪問型家庭教育支援について、本市の見解を聞いていますが、それに対して、未就学児からの切れ目のない家庭教育支援を実施し、さらに、学齢期の子どもについては、教育相談員などによって訪問もしていると答弁しています。篠田議員の質問では、半数くらいの市町村で訪問型家庭教育支援も取り入れているという話になってはいますが、本市でも、以前から訪問型家庭教育支援というのは取り組んでいると思いますので、具体的にどのように行われているのか、教育相談員やスクールソーシャルワーカーの訪問回数が実績としてどの程度あるのか、分かる範囲で教えていただきたいです。

また、家庭教育支援については、本市では、平成20年度くらいから家庭教育サポーターの設置などに取り組んでおり、大変充実していると考えております。ただ、難しいのは、子育て支援と家庭教育支援の境目です。特に、未就学児においては、子育て支援との境目が曖昧ですし、福祉、保健分野の関係機関との連携を強化すると答弁していますが、将来的に分野を統合できないかと考えています。境界がそれほどはっきりしているわけではないので、家庭教育支援と子育て支援というのは、一体化して考えていく方が良いのではないかと、独立した機関として設置するくらいの姿勢があっても良いのではないかと前から思っていたのですが、その辺りについての考え方、また、具体的な統合についての話があるのかどうかをお聞きしたいです。

指 導 課 長 市のスクールソーシャルワーカーの訪問について、昨年度は、学校で保護者等を交えたケース会議等では、小学校が4件、中学校が3件の計7件に関わり、支援をしてきたところです。

なお、市のスクールソーシャルワーカー単独での家庭訪問等については、報告はございませんでした。

教育研究所長 学校訪問担当相談員については、中学校を拠点に14名を配置しているところでございますが、各学校の教員と連携しまして、不登校等の支援のために、対象となる児童生徒宅への家庭訪問や登校支援を行っているところでございます。昨年度の延べ訪問件数は、約200件でございます。新型コロナウイルス感染症の影響が考えられますが、前に比べると、件数は抑えられているところです。

教 育 部 長 現時点で、子育て支援と家庭教育という視点からは、内部で話し合いを持っているという状況にはありません。

ただ、国のこども家庭庁が来年4月に設置予定であり、子どもに関することについては、家庭教育だけでなく、いろいろなことを包括的にやっていく流れであると認識しております。その中で、連携が必要な部分については、保健福祉部等と話し合いながら、漏れのないようにやっていきたいと考えております。

訪問型家庭教育支援の家庭訪問について補足ですが、0歳児・乳児については、保健センターにおいて、保健師や助産師等が家庭を訪問しております。また、5歳児健診において、健診を受けて問題があれば、会議で情報共有できるように取り組んでおります。日立市では、県の訪問型家庭教育支援と同じような仕組みが出来上がっていると認識しております。

委 員 教育相談員の訪問件数が200件と多いですが、相談内容は不登校に関することが多いのでしょうか。

家庭教育については、核家族化の進行やひとり親世帯の増加など、いろいろな状況がある中で、子育ての悩みを抱えている保護者にターゲットを絞って、しっかり支援ができれば良いと思っております。仕組みが出来上がっているということなので、期待したいと思えます。

教育研究所長 具体的な統計の分類はございませんが、不登校に関する支援が多くを占めているというところです。本人に会える場合、会えなくても保護者にのみ会える場合、訪問したが誰もいなかったという場合には手紙を投かんするなど、ニーズに合わせた支援を行っているところでございます。年度によっても状況は変わりますし、教員との連携が必要で、単独での支援は難しいため、件数が多い学校もあれば、全くない学校もございます。

委 員 家庭教育については、児童生徒の不登校対策は当然のことですが、それ以外の子育て、特にしつけの仕方などに悩みを抱えている保護者にうまく支援が行き届くよう、更にきめ細かくお願いしたいと思っております。

英語教育について、それなりの成果が出ているという印象を持ちました。ただ、特に小学5、6年生において、英語が教科になったことで、現場ではいろいろと苦労があるだろうと思っておりますが、日立市は、従来からALTによる対応が充実しているので、そういった面が成果に表れているのだと思えます。英語の教員免許を持っている教員が各小学校に配置されて、対応していただけるのが良いと思っておりますが、現状はどうなのでしょう。

指導課長 中里小中学校を含む日立市内の小学校25校のうち、校長、教頭を除く教諭、講師で英語の免許を持っている先生は、53名です。多い学校では、5名の先生がいらっしゃいます。

なお、人事異動や配置にもよるとは思いますが、英語の免許を持っている先生がいないという学校は3校でございます。

委員 小学校の英語が教科になったということで、英語の免許を持っている教諭が配置されることは大事だと思います。現状、平均2人くらいは各小学校に英語の免許を持っている教諭等が配置されているということですが、配置されていない学校が3校あるということなので、人事担当と連携を取らないといけないとは思いますが、できれば、全ての小学校に配置していただく方向でお願いしたいです。それによって、英語教育が充実していくと思いますので、英語の免許を持っている先生が活躍できるように、是非、よろしくお願いいたします。

委員 要望です。伊藤議員の質問において、ICT教育環境整備の現状と課題に関連して、不登校について触れられていますが、不登校の子への対応ということで、全国的にもオンラインやタブレットを使った支援が行われていますが、何がどう有効なのかがまだよく分からないというところと、不登校の子たちとカウンセリング等をする中で、学校では具体的にこういうことをしてもらえるとという提案がまだしにくいところがあります。そのため、学校での具体的な支援内容やその効果について、もう少しはっきり分かると、不登校になったお子さんや保護者にとっても良いと思います。

また、現状では、学校によって、支援を行っているところとそうでないところがあると思うので、もう少し整理してもらえると、間接的に関わる支援者にとっても、良いと思いました。

委員 感想です。クラスのほとんどの子どもは先生の目の前にいて、1人、2人がオンライン授業を受けているというときに、どうしても、その1人、2人のために画面から離れられないので、クラスにいるほかの子どもたちについては、机の間を渡っていきながらの指導範囲が限られてしまいます。教えている側からすると、それがとても歯がゆく、実際にクラスにいる子どもたちをどのように支援するのかというところもあると思うので、タブレットももちろん、例えば、先生の加配によって、1人の先生はパソコンの前で授業して、もう1人の先生が机の間を回ってくれるなど、費用は掛かるとは思いますが、そういうことについても考えていただけたら良いと思います。

委員 質問です。訪問型家庭教育支援について、具体的に導入を検討する場合、訪問をお願いする方法をどのように考えているのか、今の段階で分かれば教えていただきたいと思います。

生涯学習課長 訪問をお願いする具体的な方法については、今後、検討をしていく予定でございます。

委員 頼みやすい仕組みを作っていただければと思います。

教育部長 補足ですが、現在、日立市では、家庭教育を訪問型という形では取り組んでいないため、明確な窓口はないのですが、子育ての窓口がたくさんありますので、そこで情報が寄せられれば、お互いに窓口を紹介できるようにしております。その中で、訪問が必要な場面について、例えば保健面で必要ということであれば、保健センターにつないで、保健師に訪問していただくというような流れをイメージしております。

委員 結局は、訴えがあつてからの対応になってしまいます。虐待等もそうですが、なかなか見付きにくい、問題を抱えている家庭のキャッチの仕方です。訴えがあれば、相談対応をできるのですが、訴えなしに、そのままいろいろな問題が深刻化していってしまうという可能性もあります。特に、虐待、ネグレクトなど、そういった問題に対して、どのように支援の手を差し伸べるのかというところです。その仕組みづくりがなかなか難しく、解決策が容易には見付からないとは思いますが、相談が必要な隠れた家庭などをどうやって見付けていくのかということについても、できれば、検討していただく必要があると思います。訴えがないのに、飛び込んでいくというのは、難しいことではあるので、どのような策を練るかというところだと思いますが、その辺のところも視野に入れて、検討していただければと思います。子育て支援課等と連携していかないといけないとは思いますが、是非、教育委員会としても考えていただければと思います。よろしくをお願いします。

教育部長 おっしゃるとおり、こちらから押しかけていって、実態を把握するのは難しいというのが現状であります。例えば、学校に通っているお子さんであれば、様子がおかしいことに気付いた先生方から情報を頂いて、教育委員会で対応できるのか、保健福祉部につないだ方が良いのかなど、様々なケースがあります。そういった形でフォローしていければ良いと思っておりますので、学校にもその都度、お願いや注意喚起をしていければと思っております。

(2) 令和5年度日立市奨学生の選定状況について

教 育 長 次に、その他(2)について、総務課長から説明をお願いします。

総 務 課 長 令和5年度日立市奨学生の募集につきましては、4月の教育委員会定例会で御説明しましたが、本日は、これまでの選定状況について御説明いたします。

経済的な理由によって修学が困難な若者の進学を支援するため、令和5年4月の進学予定者を対象に、応募受付、選定作業を行ってまいりました。

本年8月、選考委員会による審議の結果、応募者48人全員が選考基準を満たしていると判定されました。しかしながら、応募者全員を選定する場合、日立市奨学金貸付条例に規定する大学奨学生の貸付人員の定員枠120人以内を超えるため、「今年度中に貸付人員の増員に関する条例改正案が議決された場合」及び「進学先が決定した場合」という条件を満たした場合、全員を選定することといたしました。これを受け、12月市議会定例会に同条例の改正議案を上程し、大学奨学生の貸付人員の定員枠を180人以内に改めたところです。

条例の公布後、12月中に、応募者全員に対し、市奨学生の選定通知を送付いたします。

募集及び選定の状況ですが、高等学校奨学生は、募集の結果、応募者はなく、大学奨学生は、募集30人程度に対し、応募人数は48人でした。選考委員会の審査等を経て、選定人数は48人でございます。

本年5月の募集案内後、5月から7月にかけて応募を受け付けまして、8月に書類審査、個別面接を行い、選考委員会を開催しました。その後、12月の条例改正を経て、奨学生応募者に選定結果を通知いたします。今後は、随時、奨学生選定者から日立市へ進学先決定を証明する合格通知書を提出してもらい、来年3月には、令和5年度奨学生の決定を予定しております。

(3) 令和4年度日立市優秀教職員等褒賞事業の受賞者について

教 育 長 次に、その他(3)について、学務課長から説明をお願いします。

学 務 課 長 本市教育の振興発展に寄与した学校等を褒賞することにより、教職員の勤務意欲を向上させるとともに、先進的な実践を共有し、本市教育の振興発展を図るために、平成22年度から実施しているものでございます。

褒賞基準については、分野ごとに、特に顕著な成果を挙げた学校、教職員について、教育委員会事務局の部課所長で構成する審査委員

会が審査及び内審し、教育長が決定するものでございます。今年度は、学校の部で3校、教職員の部で7名を褒賞いたします。

昨年度の褒賞は、学校が5校、教職員が10名で、昨年度に引き続き、今年度も教職員の褒賞が多い傾向となっております。また、今年度は、学校の先生のほか、用務員や学校事務員からも幅広く受賞者が出ております。

なお、表彰式は、年明け1月13日の金曜日、学校長・園長連絡会の終了後に執り行う予定でございます。

(4) 第69回日立市教育論文応募状況及び審査結果について

教 育 長 次に、その他(4)について、指導課長から説明をお願いします。

指 導 課 長 応募総数でございますが、令和4年度は15編ございました。内訳は個人が14編、共同が1編です。

学校種別応募状況は、小学校が6校12編、中学校が1校2編、特別支援学校が1編ございました。

年齢別応募状況は、30代前半が最も多く、6名となっております。

研究分野別応募状況は、国語、社会、算数・数学など、10の教科や領域で応募がございました。

本年度の特色と傾向でございますが、応募者の多い学校があり、研修意欲の高さが見受けられました。学校名を挙げますと、大久保小学校が5編、田尻小学校が3編ございました。また、各教科や領域等で身に付けさせたい資質・能力を育成するために、手立てを工夫し、具体的な実践内容を述べている論文が多く見られました。

今後の課題ですが、論文の応募数が少ない状況が数年続いております。悉皆研修と関連付けたり、自分の指導について客観的に分析する利点を伝えたりするなどの取組によって、応募数を増やしていきたいと考えております。また、各種調査の数値に基づき、一貫した観点から成果を評価するなど、客観的なデータを多角的・多面的に収集、分析していく必要があると考えております。

最後に、入賞論文でございます。令和4年度の入賞論文は、全部で8編でございます。内訳は、最優秀賞1編、優秀賞2編、優良賞5編でございます。

最優秀賞は、田尻小学校の斉藤恭正先生が理科学習の実践をまとめたものでございます。

優秀賞は、大久保小学校の大宮拓舞先生が外国語科の実践をまとめたものと、田尻小学校、夏井尚馬先生が情報教育の実践をまとめたものでございます。

委員 最近は、応募数が少ない状況が続いているということですが、先生方の多忙化が関連しているのではないかと考えてしまいます。特に、コロナ禍の対応に追われているということもありますし、関係があるのかどうかについて、考え方をお聞きしたいです。また、その一方で、たくさん応募している学校もあるので、学校によって意気込みの差が出てきているのではないかと思います。その辺のところの考え方についてもお聞きしたいです。

指導課長 全ての学校に聞き取ったわけではありませんが、先生方の多忙感というのはあると思います。また、以前は遅くまで残ったり、管理職が関わって論文を仕上げたりという部分があったのですが、働き方改革もあり、なかなか管理職の方もそこまで踏み込んでいけないという声もございます。

ただ、一方で、論文を数多く出していただいた学校もあります。そういう学校にお話を聞きますと、毎年論文を書いているような先生がいらっしゃったり、学校として計画を緻密に立てて、4月から順次進めていた学校もございまして、そういう好事例を市内の校長先生方に伝えていって、来年度は、それを基に応募を広めていきたいと考えております。

(5) 令和5年度日立市立幼稚園等の園児募集の結果等について

教育長 次に、その他(5)について、子ども施設課から説明をお願いします。

子ども施設課 9月の定例会におきまして、公立幼稚園及び認定こども園の令和5年4月入園の園児募集について御説明させていただきましたが、本日は、その結果について御報告させていただきます。

5つの園の1号認定について園児募集を行いまして、4歳児クラスが38人、5歳児クラスが2人、合計40人の入園希望がございました。前年の40人と同数となっております。

また、令和5年4月の園児数見込みでございまして、こちらは、受付人数と進級する在園児の合計で、見込み数は82人で、前年の86人と比較して、4人の減少となっております。

次に、私立幼稚園・認定こども園の応募状況でございまして、幼稚園8園、認定こども園12園、合計20園の受付人数は261人で、前年に比べて56人の減少、進級する園児を含む来年4月の園児数見込みは971人で、前年に比べて108人の減少となっております。

続きまして、市立幼稚園の閉園予定についてでございまして、現在、休園中の会瀬幼稚園につきましては、令和4年度末で閉園を予

定しており、それに伴い、日立市立学校設置条例の一部改正を予定しております。

(6) その他

教 育 長 そのほか、案件はありますか。

生涯学習課長 日立市二十歳の祝い記念式典について、御説明をさせていただきます。

式典の概要につきましては、8月の定例会で御説明申し上げたところでございますが、事業の詳細がまとまりましたので、改めて主な内容について、御説明させていただきます。

開催期日は、令和5年1月8日の日曜日でございます。

開催方法は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、昨年度と同様に2部制で開催いたします。

会場は、池の川さくらアリーナでございます。

主催は、2023年日立市二十歳の祝い実行委員会で、テーマは、「^{かがやき}輝～それぞれの場所でそれぞれの色に～」に決まりました。

開催内容でございますが、式典の開始時間につきましては、第1部が午前11時30分から、第2部が午後2時30分からの開始を予定しております。また、式典終了後は、昨年同様、アトラクションを実施せず、出身中学校ごとに記念撮影を行うこととしております。

また、市長及び議長からの御祝辞につきましては、ビデオレターとし、当日会場にて放映いたします。

今回は、実行委員会の主催事業として、二十歳の節目を迎えた自分を表現する機会とするため、桜の花びらの形を模した付箋に、自分を表す漢字一文字を書いてもらう事業を実施いたします。桜が開花する前に、市の花である桜を自分たちで表現しようというものでございまして、受付時に回収した付箋を模造紙に張り付け、装飾を施しまして、大きな桜の木を作り、市内公共施設に展示することを予定しております。

最後に、式典当日の出席者でございますが、昨年同様に、新成人と恩師に御出席いただくことを予定しております。

5 次回の教育委員会の日程について

教 育 長 次回の教育委員会定例会の日程について、総務課長から願います。

総務課長 令和5年1月26日(木)午後1時30分から、日立市役所3階
304・305号会議室で開催予定です。

6 閉 会

教育長 以上をもちまして、教育委員会12月定例会を終了いたします。

以 上